

◆ 2019 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：嵐山町里山保全会

22A-25

代表者：会長 神岡裕介

URL :

1. 活動が必要とされた状況

嵐山町は、少子高齢化の影響により山林管理ができない現状が多く見受けられる。人工林の多くは、外材との価格競争により、経済的な面で管理をしなくなった、現在は、先に挙げて高齢化という物理的な面でも管理ができなくなっている。管理放棄が起こり、人工林が持つ公益的機能も乏しくなっている。また、自然景観や人と自然の関りから生まれる情景も減少し、人々の自然や地域への興味関心も薄れていく現状もみられる。上記のような課題や現状を打破すべく活動することは必須であった。



管理せず形状比が高い林内

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 30 年度から発足した当会は、二年目の活動を迎えた。主要メンバーは、数名と少ないがサポーターの力を借りて活動や交流を図ることもできた。2019 年の活動では、8 月中旬に日中韓環境教育ワークショップを開催し、当会の活動や森林の整備方法などについて意見交換を行うことができた。

また、日中韓環境教育ワークショップの開催前後にて下草刈りや林内清掃を主要メンバーにて実施した。



左→当会と中韓メンバー（一部） 右→皮むきワークショップ風景

3. 活動の成果

ムカデ梯子を使った枝打ち・チルホールや滑車を使用した搬出作業（伐倒時）を実施した。枝打ちができたことで見た目も開放感が生まれ、日光が入る時間帯も増えて新たな更新が進んでいくこと自然の力と伴走していきたいと思う。



写真：（左より）クリップと滑車・チルホール、ジョイント梯子、枝打ち風景

4. 今後に残された課題

下草刈り・枝打ち・間伐・搬出という原木を手に入れるための資機材やサポーターは整備された。今後は、山林に憩えるような滞留空間整備（縁台やウッドデッキ）や持続可能な活動にしていくための収益確保及び材の有効活用という観点から薪割機の導入などを検討し、人の気持ちや対価や自然環境などの好循環を発生させたい。